

文化祭も盛会に終わり、今年も残すところあとわずかとなりました。街にはクリスマスのイルミネーションが輝いています。今回の人権キャリアだよりは、夏期休業中に行われた職員人権研修や夏期社会適応訓練事業、ご家庭で取り組んでいただいたチャレンジウィーク、今年度に行われた高等部の就業体験について紹介します。

## ★職員人権研修より★



今年度は「ハンセン病患者の人権」に焦点をあて、8月21日

(水曜日)に高松市庵治町にあるハンセン病療養所 大島青松園に現地研修に行ってきました。研修の内容や、研修後の感想などを紹介させていただきます。

### 【ハンセン病とは】

ハンセン氏によって1873年(明治6年)に『らい菌の体内侵入による慢性感染症である』ことが解り名付けられた。治療は、薬剤(プロミン)投与が行われ治癒するが、症状としては、末梢神経・皮膚および眼に主として症状が現れる。早期発見と確実な治療が行われなければ、不可逆的な後遺症を残すことがあり、治療終了後の社会生活に重大な支障を来すことがある。

### 【研修内容】

★施設見学★納骨堂、風の舞、火葬場前石碑・石像など園内を見学しました。

★医療講話★整形外科のドクターからハンセン病についての講話を聞きました。


★県人会の方との交流★徳島県人会の方から、実体験を交えた貴重なお話をいただくことができました。

★DVD「風の舞」鑑賞★詩人 塔和子さんにスポットをあて編集されている映像資料を徳島県人会の方と一緒に視聴しました。

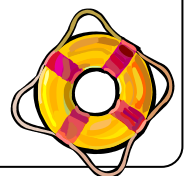


## 【参加した職員の感想】



- 大島青松園へ職員としての就職が決まっても家族の反対で辞退する方が現在でもいるという話があり、一度作られた差別や偏見はなかなか根強いことを感じた。
- 園内には納骨堂があり、同園では現在2, 117名の遺骨が納められている。亡くなくても郷里の御墓に入ることを許されない遺骨や同園で本名を名乗ることができず、偽名のままの遺骨もあるとのことで、胸が張り裂けそうな思いであった。
- 97歳の最高齢の方もおいでだが、私たちに当時の話しをしっかりとした口調で話してくださった。後遺症の程度は様々で失明されている方もおいでだが、心穏やかに過ごされ前向きに生活をされていることに、聴いている私たちが元気をもらったように思う。
- 澄み切った空、聞こえてくる波の音などと対比され、より一層患者の方々の悲惨な思いが感じられた。現地でフィールドワークを行うことで、その場で体感したことや思いなどが鮮明に記憶された。
- 「風の舞」の視聴から。迫害の厳しさ、国策の背景を改めて知り取り返すことができない時間の惨さにやるせない気持ちになりました。
- 元患者が結婚する際には、子供が生まれないよう避妊（断種）の処置が行われていたことを話され、そのような非人道的行為が行われていたことを知り愕然とした。
- 「とてもよかった」とか「本当に辛かったらう」とか「そういう時代だった」などと軽率に言えるものではない。入所者の平均年齢が80歳を超え、入所者の話にもあったが、いつかハンセン病の元患者はいなくなるだらう。偏見と差別だけが残ってしまっっては、何の解決にもならない。

個人で大島へ行き、各施設を見学することはできますが、詳細な説明を受けることはできません。連絡船は、官営のため無料ですが2つの航路があり、季節、曜日により運行時間が異なるので注意してください。



## ★高等部就業体験について★



今年度普通科、職業学科の生徒が就業体験を行いました。

普通科の生徒は、一般事業所や福祉施設で行いました。

ヴィヴァーチェ野菊 3日間 ・ 有誠園地域活動支援センター 3日間  
ローソン阿波吉野町店 5日間 ・ 健祥会ハート 7日間

職業学科については、2年時に事業所見学を行っており、夏休みを利用して関西方面にも行きました。

【事業所見学】中洲 八木病院 ・ シンノオルヤマサカ鍼灸院

【関西事業所見学】京 都：十徳灸，洛陽健康倶楽部，大塚鍼灸接骨院

和歌山：宇須総合治療院

## ★夏期社会適応訓練（吉野川市・阿波市）★

今年の夏も吉野川市・阿波市に在住する生徒を対象に行われている夏期社会適応訓練事業に本校中学部の生徒が参加しました。本校の生徒は、吉野川市にある「特定非営利活動法人 巢立（すだち）」で、平成25年7月23日～7月27日の5日間体験をしました。参加生徒にインタビューをしました。



〈何時から何時まで、「巢立」ですごしましたか？〉

午前9時～午後4時まで お昼休みは12時～午後1時の1時間でした。

〈自宅から「巢立」までは、どのようにして通いましたか？〉

母の車で行きました。

〈どのような物を準備していききましたか？〉

施設内ではくための上靴，屋外での活動に備えての帽子，水筒，昼食代，タオルを持って行きました。暑さ対策として，お茶を飲み，水分補給をしました。

## 〈どのような体験をしましたか？ 「巣立」の方に一言〉

ちぎりや組み立ての作業をしました。映画を見たり、買い物もしました。友達もでき、夏祭りも楽しみました。「巣立まつり」でポップコーンの味付けをしてカップに入れるお手伝いをしました。5日間お世話になり、ありがとうございました。



生徒の皆さんが経験した貴重な足跡は、将来の進路を選択するにあたり大きな示唆を与えるものとして心に残っていると思います。地域の施設や作業所を知っておくことやつながりを持っておくことも大切ですね。

## ☆チャレンジウィークの紹介☆

4年目を迎えた「Challenge Week」。幼稚部から高等部までの子どもたちが、夏休みの2週間、ご家族の協力のもと、「できる役割」を決めて取り組みました。

それぞれの子どもたちが夏休みに取り組んだ課題を紹介します。

- ・ 食事の準備（高） ・ 食器を運ぶ（高）
- ・ 靴を揃える（中）
- ・ 包丁をたてに持って切ることが出来る（小）
- ・ 部屋の照明を消す（小）
- ・ 地域のラジオ体操に参加する（小）
- ・ 洗濯物をたたむ（小）（幼）
- ・ 洋服の着脱（幼） ・ 指先を使って遊ぶ（幼）



この体験を手始めに、子どもたちには“役割を果たす喜び”を感じて欲しいと思います。そのことが、将来の自立や就労につながるに違いありません。

冬休みには、お手伝いの機会も増えてくると思います。みなさんのチャレンジを期待しています。

